

## 1. タッチボタン

$\mathcal{N}$ (Enter)、←(Back Space)、0~9 の12個のキー で構成されています。

## 2. LCD 表示

6桁の7セグメント数字とドット、3つの電池残マーク、ロック状態を示すL表示、1分間有効なトークンを似せた数値の寿命を10秒単位で示す6個のバー、2つのコロン で構成されています。

## 3. 動作モードの切り替え

電源オン直後に、「INIT #」形式でカウントダウンしている間は、タッチキーのバックグランドレベルの情報を収集しています。基板周辺に手や体の一部を近づけないようにしてください。

キー	動作
$\mathcal{N}$	LCDにL表示がされているロック状態の時、2秒以上 $\mathcal{N}$ にタッチし、KEY=L表示がされたら、30秒以内に1、2、3、4、5、 $\mathcal{N}$ とタッチするとロック解除され、LCDのL表示が消えます。キーワードが違ったり、30秒以内に正しいキーワードの入力がなかったりした場合、再びロックされます。なお、何もキータッチがない状態で2分間経過した場合も、ロックモードに移ります。
←	数値入力時は、直前の入力値を取り消すバックスペースキーとして機能します。一番左側にカーソルがあるときにタッチすると、現在のコマンドをキャンセルします。
0	各キーのコマンドを説明するヘルプ動作を開始します。
1	トークンに似せた数値を表示します。(注1)
2	RTCの現在時刻を表示します。(注1)
3	日付を約4秒間表示したあと、2のRTCの現在時刻を表示するモードに移行します。
4	チャレンジレスポンスを模倣した動作です。任意の数値を入力して $\mathcal{N}$ をタッチすると、60秒間有効なトークンを表示した後に1のトークンモードに移行します。30秒以内に操作を完了しないときも、そのトークンモードに移行します。
5	故意にハングアップさせます。そのためWDTが動作してリセットされ、初期化から再開します。その際、RTCの日時と日付の情報は保持されますが、起動時にOSC1が停止するため、約1.5秒時刻が遅れますのでご注意ください。
6	キーにタッチした時のクリック音をオン/オフします。
7	日付、時刻を設定します。2015/01/09 12:34:56の場合、150109123456と入力します。60秒間過ぎるまでに入力を完了しないと、直前の動作モードに戻ります。ただし、まだ日時の入力がされていない状態で120秒経過した場合は、SLEEP表示後、CPUはHALTします。その場合はリセットするか電池を抜き差しするかし、初期化動作から行ってください。
8	乱数の種SEEDの値を変える際に使用します。数値入力後に $\mathcal{N}$ をタッチしてください。30秒間過ぎるまでに入力を完了しないと、直前の動作モードに戻ります。
9	手動でロック状態に移行させる場合、このキーをタッチしてください。

注1: 直前の動作モードとして有効なのはこれら2つのモードだけです。すなわちロック状態ではどちらかの動作モードの表示が続きます。

以上